

[科目名] 金融経済学 I				[単位数] 2 単位		[科目区分] 専門科目 基幹科目	
[担当者] 山本 俊 Yamamoto Shun		[オフィス・アワー] 時間: 第 1 回の授業で連絡します。 場所: 528 研究室			[授業の方法] 講義		
[科目の概要] 金融経済学 I では、金融にかかわる取引コストに焦点を充て、その発生メカニズムや抑制のための仕組みを、ミクロ経済学に基づいて学修します。特に、資金返済のリスクなど、金融取引には不確実性がともなうため、金融取引を、統計学で学んだ「期待値」や「標準偏差(リスク)」などによって捉え、「期待値」を変化させるための工夫や、「標準偏差(リスク)」を変化させるための工夫を学修します。さらに、金融取引が行われる金融市場の特徴や裁定の理論を学ぶことで、リスクをとともなう様々な証券の評価方法の基礎を学修します。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 1. 他の科目との関連付け 金融経済学 I では、ミクロ経済学の考え方を基本としますので、ミクロ経済学の十分な理解が必要です。特に、消費者理論、不確実性、情報の経済学に関する部分、統計学の期待値や標準偏差についてはもう一度目を通しておくと理解が進むでしょう。なお、金融経済学 I は金融関連の基幹科目に位置付けることができます。 2. 学んだことが何に結びつくのか？ 人生の大部分は仕事の時間であり、その目的の達成に向け、資本や労働力の確保が必要になるでしょう。ここでの資本とは、設備や工場を指し、この確保に向け、銀行や投資家からおカネを調達する必要があります。また、個人としても、人生の3大資金の調達が必要です。これらは資金調達と呼ばれますし、将来の資金調達に向けて、おカネを債券や株式に変えて保有し、キャピタルゲイン(値上がり益)やインカムゲイン(利子や配当による収入)を得ようとするかもしれません。これは資産運用と呼ばれ、資金調達とともに、その意思決定に必要な知識や判断力を身につける必要があります。そのために、金融経済学 I を通じた学修が役立ちます。							
[科目の到達目標] ・金融取引にともなう取引コストと、その抑制方法を説明できる。 ・ポートフォリオによる資産選択理論の仕組みと意義を説明できる。 ・裁定取引の帰結や債券の利回り、株式の価格決定の理論を説明できる。							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] ・昨年は配布資料に誤植が散見されたため確認を重ねつつ、聞き取りやすい説明を意識します。							
[教科書] ・金融経済学 I では教科書を使用せず、配布する授業資料に基づいて授業を進めます。 ・なお、授業資料の作成では、主に、下記の指定図書、参考書を参照しています。							
[指定図書] ・内田浩史『金融(新版)』有斐閣、2024 年							
[参考書] ・晝間文彦『基礎コース 金融論 第 4 版』新世社、2018							

<p>〔前提科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、統計学、マクロ経済学 ・上記の科目のいずれかの単位を修得していない方も本科目を履修できます。 	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の方法によって成績評価します。 ①授業内クイズ:30%(理解を深められるよう授業内で解説をします) ②期末試験:70%(択一式と記述式の併用) <p>※評価の前提として、原則、全授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ①この授業においては、「何故なのか」という視点に立ち、考える過程をしっかりと辿るよう意識します。 ②ミクロ経済学などの基本事項は授業内でも可能な限り補足説明するよう意識します。 ③学生が授業内容を聴き、考える時間と、学生が授業内容を整理する時間を区別するよう意識します。 ④第1回目の授業において、授業の進め方や評価方法などについて補足説明します。 ⑤学生には、他の受講生を意識した高い受講マナーを期待します。 	
<p>〔実務経歴〕なし</p>	
<p>授 業 ス ケ ジ ュ ー ル</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、金融リテラシーと金融の特徴</p> <p>内 容: まずは、シラバスに基づいたガイダンスです。その上で、金融を学び、金融に関する知識や判断力といった金融リテラシーを高めることができれば、金融に関する行動や判断力にどんな変化が期待されるのかを、金融リテラシー調査をもとに考察します。</p> <p>指定図書 第1章</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 貨幣の機能と時間価値</p> <p>内 容: 貨幣の機能を経済学の視点から定義し、それと関連付けながら、決済システム、貨幣の時間価値、フィッシャー仮説について考えます。さらには、貨幣の暮らしの中での多様な機能を理解する意味でも、貨幣の民俗学的な機能についても考えてみましょう。</p> <p>指定図書 第1章、第2章の前半</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 私たちがおカネを貸借する理由(1)</p> <p>内 容: ここでは、私たちがなぜ、おカネを貸借するかということについて、ミクロ経済学の消費の理論をもとに分析し、異時点間消費の最適化について考えます。指定図書 第2章</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 私たちがおカネを貸借する理由(2)</p> <p>内 容: 前回の学修内容をもとに、貨幣の使用に関する性急さや利子率の変化が異時点間消費の最適化に与える影響について理解を深めます。</p> <p>指定図書 第2章</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融取引における様々なリスク(1)</p> <p>内 容: 金融取引を阻害する要因を学びます。また、効用関数を用いてリスクを計測する指標や、返済から得られる収入の期待効用を高める方法についても考えます。</p> <p>指定図書 第3章、第4章</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融取引における様々なリスク(2)</p> <p>内 容: 前回の学修内容をもとに、効用関数を用いてリスクを計測する指標や、返済から得られる収入の期待効用を高める方法についても考えます。</p> <p>指定図書 第3章、第4章</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融取引におけるリスクの軽減手段(1)</p> <p>内 容:金融取引におけるリスクの軽減手段を期待効用の考え方をもとに学びます。特に、流動化、証券設計、情報生産がどのような仕組みでリスクを軽減するのかを考えます。</p> <p>指定図書 第5章、第6章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融取引におけるリスクの軽減手段(2)</p> <p>内 容:金融取引におけるリスクの軽減手段を期待効用の考え方をもとに学びます。特に、担保・保証がどのような仕組みでリスクを軽減するのかを考えます。</p> <p>指定図書 第5章、第6章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):分散化によるリスクの軽減</p> <p>内 容:ここでは、リスクの軽減方法として、いくつかの金融資産が組み入れられたポートフォリオによる分散化を考えるために、統計学で学んだ期待値や標準偏差、相関係数を導入します。</p> <p>指定図書 第7章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):複数の金融資産からなるポートフォリオの評価</p> <p>内 容:第8回の学修をもとに、複数の危険資産からなるポートフォリオに安全資産を組み入れることで得られる効率的フロンティアについて学びます。<u>第9回までの学修内容を範囲としたクイズを実施する予定です。</u></p> <p>指定図書 第7章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):最適ポートフォリオの選択</p> <p>内 容:第9回にて描き出した効率的フロンティアに、危険回避者を想定した無差別曲線を重ねることで、期待効用を極大化する最適ポートフォリオを選択します。さらに、効率的フロンティアを決定する(危険資産からなる)ポートフォリオは、どのような選好を持つ投資家であっても同一になるという強い結論についても考察します。また、<u>前回のクイズについて解説し、講評を申し上げます。</u></p> <p>指定図書 第7章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):テーマ(何を学ぶか):金融市場のタイプと機能</p> <p>内 容:貸し手と借り手が出会う金融市場の種類と機能について考えます。例えば、短期金融市場や資本市場にはどのようなタイプがあり、どのような役割を果たしているのでしょうか。</p> <p>指定図書 第9章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融市場における裁定と債券の利回り</p> <p>内 容:金融市場における裁定取引による理論的帰結、割引債と利付債の利回りを学修します。</p> <p>指定図書 第7章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):株式の理論価格の決定モデル</p> <p>内 容:前回の学修内容を踏まえ、株価決定モデルについて学修します。</p> <p>指定図書 第9章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):これまでの学修をもとにした住宅ローンの検討</p> <p>内 容:皆さんが青森県において住宅を購入するために、住宅ローンを組み込むと想定し、これまで学んだ知識や考え方をもとに、金融仲介機関の選択、借入審査の内容と意義、ローン契約のタイプ別特徴、諸費用、ローン返済額の目安などについて考えてみましょう。</p> <p>指定図書・参考書 該当なし</p>
試験	<p>期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などを授業内で連絡します。</p>